

# ホクコーロディー®水和剤

■種類名：フェンプロパトリン水和剤  
 ■有効成分：フェンプロパトリン----- 10.0%  
 ■PRTR法指定物質：フェンプロパトリン [第1種] ----- 10.0%

■登録番号：第17117号  
 ■毒性：医薬用外劇物  
 ■登録初年：1988.10.25  
 ■性状：類白色水和性粉末 45μm以下  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：500g×20袋

## 【特長】

➢ 広範囲の害虫に効果のある合成ピレスロイド系殺虫剤で、果樹のカメムシ類のほか、シンクイムシ類、ハマキムシ類に効果がある。

## 【適用内容】(2021年8月31日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数					
かんきつ	アブラムシ類、ミノガ類	1000~2000	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	9回以内 (噴射は5回以内、 散布及びくん煙は 合計4回以内)					
	チャノキイロアザミウマ	2000										
	ハスモンヨトウ	1000										
りんご	シンクイムシ類、キンモンホソガ アブラムシ類、ハマキムシ類 カメムシ類	1000~1500		2回以内	収穫前日まで		7回以内 (噴射は5回以内、 散布は2回以内)					
	ナミハダニ、リンゴハダニ ギンモンハモグリガ	1000										
なし	アブラムシ類、シンクイムシ類 ハマキムシ類	1000~1500		5回以内				10回以内 (噴射は5回以内、 散布は5回以内)				
	カメムシ類、ハダニ類	1000										
もも	モモハモグリガ	1000~2000		2回以内					7回以内 (噴射は5回以内、 散布は2回以内)			
	アブラムシ類、シンクイムシ類	1000										
すもも	シンクイムシ類	2000		収穫21日前まで						8回以内 (噴射は5回以内、 散布は3回以内)		
ぶどう	チャノキイロアザミウマ											
かき	カキノヘタムシガ チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ、カメムシ類 ハマキムシ類	1500									2回以内	7回以内 (噴射は5回以内、 散布は2回以内)
	おうとう											
うめ	アブラムシ類 ノコメトガリキリガ	2000~4000	3回以内			8回以内 (噴射は5回以内、 散布は3回以内)						
	びわ	アブラムシ類、カメムシ類 ビワキジラミ									2000	

## 【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。
- ◆ 内袋はぬれた手で触れないこと。
- ◆ 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切ること。

- ◆ 薬液調製の際は、容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく攪拌すること。
- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合すること。
- なしのハダニ類及びりんごのナミハダニに対する残効は、短い傾向があるので留意すること。
- 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着する恐れのある場所では使用しないこと。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- ハダニ類は薬剤抵抗性が発生しやすいので、本剤の連続使用は避け、作用性の異なる他の殺ダニ剤と輪番で使用すること。また、本剤の年間使用回数もできるだけ少なくするよう努めること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 粉末は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤はのど、鼻、皮膚などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意すること。
- ❖ 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。  
また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- ❖ 摘果等の作業の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- ❖ 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。  
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。 使用  
残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は  
水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。  
水溶性フィルムで包装した製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。